

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

7

2019 No.778

3 はじめの言葉

4 情報社会を考える その106

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

安倍外交の危うさ

虚々実々の外交舞台とは言え、安倍首相が最高の蜜月状態にあるとする米国トランプ大統領の一手一投足に振り回されている。国内問題でほとんど実績を示し切れない政府としては、外交舞台で成果をアピールしたいところのようだが、ことごとく空振りしている。

- ①ロシアとの平和条約の締結、北方領土の返還、経済協力の推進、
 - ②北朝鮮からの拉致被害者奪還、
 - ③韓国との慰安婦／徴用工問題など戦後処理問題の総仕上げ確認、
 - ④米国からの軍事装備の購入、沖縄の辺野古問題、国防体制の整備問題、
- など、国民が納得できるレベルでの成果は上げ切れずにいる。
とてもではないが、外交成果と言えるものは、何一つない。

6 デジタルガバメント DG18

デジタル政府の展開 番外編2

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018年1月16日に日本政府もデジタルガバメント実行計画をeガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28年1月16日から2023年3月31日までの計画である。2018年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府はICTを使って政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

12 連載 アーキテクチャ論 (99)

DXレポートの要点

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

本連載90回でDXレポート～ITシステム「2025の崖」の克服とDXの本格的な展開～について、DX推進システムガイドライン、見える化指標、ITシステム構築におけるコストリスク低減策を説明した。しかし、DXレポートの背景などについては紹介していなかった。

9月に「DXレポート」が公開されてから、国内での反響は大きく、デジタル変革関係のセミナーが大盛況になっている。そこで今回は、DXレポートの背景やDXの定義、段階的なDX期間など、DXレポートを読み解く上での要点を解説する。

1 8 連載 情報システム考

企業情報システムの変遷と行方 第22回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

2 3 IT新時代とパラダイム・シフト

第116回 米中の5Gを巡る覇権争いが本格化

根本忠明

2019年は5G元年と呼ばれ、移動通信主要国の先陣争いが凄まじい。5GはIoTの通信インフラ基盤と期待されているからである。特にインターネットを巡る米中の覇権争いが本格化している。4G時代まではアメリカが主導権を握ったが、5G時代は中国が覇権獲得をめざしている。日本は蚊帳の外にいただけでなく、米中の覇権獲得競争に巻き込まれようとしている。米中の5Gを巡る覇権競争を軸に、これまでの経緯を整理してみたい。

2 6 続インテリジェンスへのいざない 113

改めて確認したい情報管理サイクル

今井 武

真偽の情報氾濫の中で

フェイクニュースなどの偽情報が、社会的な害を与えている。これに対処し、データの実証性を確保するためのファクトチェックやデータの出所を明らかにすることなどを検討し、偽情報への法的規制の拡大などが議論されているらしい。しかし、このような対処法は完全には機能しない。最大の理由は、偽情報が出回ってからの対処になるからだ。望むべくは、予防対策こそが重要なのだ。考えてみれば、洋の東西の歴史になかで、偽情報によって歴史が変わったことは多い。戦物語では、相手をかく乱する偽情報の例は多い。作り話の度合いは大きいですが、中国の三国志の中で名軍師諸葛孔明の軍略にも多く見られる。

2 8 連載 「まるで漫画」シリーズ

すぎやまチヒロ

（毎週アップデートされる「まるで漫画シリーズ」 ホームページをご覧ください。）

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの概念	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとテスト・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正確性の問題点とデータウェアハウス	付 録
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 CodeRushによるOLAPプログラムの評価	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析集計の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 301頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動ピクセス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第八章 人間であること(人間行動ピクセス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシナリ研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM RIFの拡張と前記
第二章 aism情報セキュリティ研究会の設立	第十二章 メールが漏れかGTL
第三章 認識される電子署名方式の基本論	第十三章 自ネットワーク利用のための情報オーナーの認識
第四章 署名を掛け付けたCodeRedフレーム	第十四章 最近のインターネット新情報セキュリティ対策
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 日万バリエーションの高基と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WORM(バーチャル)フレームワーク	第十七章 ケーススタディ情報セキュリティ教育I
第八章 aismの2007年度の事業活動	第十八章 電子署名の「署名」機能にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ研究会の意見と提議	
第十章 インターネット環境の発展と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成長評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 食料供給のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)
A4版 212頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分類方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方規式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)
A5版 280頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの発展条件	■ 変革も企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 経営層の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編I」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	＜付＞記事とどう付き合う十六の疑問(ほとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国産グローバルサーバー
—EM社会に根ざす国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)
A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 変遷	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 某チーム前後の発展
第三章 国産システムへの働き	第十三章 新たな陣っ手
第四章 W3Cに向けて	第十四章 某チーム開発と新たな展開
第五章 F4C, 98編論争	第十五章 国産システムとインターネット
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本開発体制と本業発展の歴史
第八章 某チーム立ち上げの誤れ	第十八章 国産システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 経験その一 前編、直後の苦しみ
第十章 某チーム、壁となる三人組	第二十章 経験その二 実装後編と企業センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp